

平成24年行政事業レビューシート（文部科学省）

事業名	科学官の運営等	担当部局庁	研究振興局	作成責任者				
事業開始・終了(予定)年度	平成16年度	担当課室	振興企画課学術企画室	学術企画室長 伊藤 史恵				
会計区分	一般会計	施策名	IX-1 学術研究の振興					
根拠法令 (具体的な条項も記載)	文部科学省組織規則 第62条第1項・第2項・第5項、第69条の2第1項・第2項・第4項	関係する計画、通知等	第4期科学技術基本計画(平成23年8月19日閣議決定)					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	専門的知見を有する大学等の研究者を科学官・学術調査官として採用し、研究現場の実態に即した施策の企画・実施により我が国の学術研究を振興する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	科学官は、学術に関する重要事項の企画及び立案に参画する。 学術調査官は、学術に関する事項についての調査、指導及び助言に当たるほか、研究経験のある専門的知識を持ったプログラム管理者として、科学研究費補助金の一元的管理・評価等を行う。 科学官および学術調査官が上記職務にあたった際の給与および旅費を支給するものである。							
実施方法	■直接実施 □委託・請負 □補助 □負担 □交付 □貸付 □その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	37	38	34	32	32	
		補正予算	-	-	-	-		
		繰越し等	-	-	-	-		
		計	37	38	34	32	32	
	執行額		34	30	26			
	執行率(%)		92.0%	80.1%	76.5%			
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)
	本事業は、科学官および学術調査官に対して給与および旅費を支給するものであり、成果について定量的な指標を用いて示すことができない。		成果実績	—	—	—	—	—
			達成度	%	—	—	—	
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	本事業は、科学官および学術調査官に対して給与および旅費を支給するものであり、成果について定量的な指標を用いて示すことができない。		活動実績 (当初見込み)	—	—	—	—	—
				(—)	(—)	(—)	(—)	
単位当たり コスト	(円／)		算出根拠	本事業は科学官および学術調査官に対して手当(日給)および旅費を支給するものであり、1単位当たりのコストを記載することはなじまない。				
平成24・25年度 予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
	非常勤職員手当	18百万円	19百万円	執行実績を踏まえた経費の縮減し、より適切な執行を行うための経費を積算 執行実績を踏まえた経費の縮減				
	委員等旅費	14百万円	13百万円					
計	32百万円	32百万円						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・状況・予算の	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	科学官・学術調査官が持つ卓越した専門的知識や経験、指導・助言等が、審議会等の学術の振興に関する企画立案の場で活かされ、我が国の先駆的・独創的な学術研究の推進に寄与しており、国の円滑な政策立案の観点から優先度は高い。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目・	—	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	本事業は科学官および学術調査官に対して手当（日給）および旅費を支給するものである。
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	—	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	審議会等の審議に参画し、各種報告等の取りまとめや策定や支援事業の円滑な運営などに寄与している。例えば、科研費制度において、「審査委員候補者の推薦・選考」、「各委員会の議事運営」、「応募者への審査所見案の作成」、「中間・事後評価の所見案の作成」など、審査・評価を行う上で重要な役割を担っている。そのほか、現役の研究者としての知見をもとに科研費制度の改善・充実のために必要な助言をいただいております、それが科研費の制度改善等に活用・反映されている。
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	—	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	・政策の企画・立案への参画や調査・指導・助言により、審議会での提言や施策の円滑な実施の形で成果を上げている。		
	・会議の開催状況や出席状況等により不用率が上がる場合があり、より適切な見積もりが課題であるが、メール等を活用した情報収集をもとに審議会の基礎資料を作成するなど、効率的な執行に向け成果を上げる工夫もしており、引き続き、事業の効果的な実施を目指し、コスト削減等に努める。		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	1. 事業評価の観点：本事業は、学術に関する重要事項の企画・立案に参画する科学官及び、学術に関する事項についての調査、指導、助言等に当たる学術調査官に対し、給与及び旅費を支給するものであり、予算執行状況の観点から検証を行った。		
	2. 所見：本事業は、平成23年度決算において不用額が生じていることから、不用額が生じたより詳細な要因を分析した上で、予算執行の実績を適切に概算要求に反映すべきである。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点（概算要求における反映状況等）			
縮減	本事業は、当該年度の会議の開催状況や出席状況によって予期しない不用が出る場合があるが、メール等を活用することで効率的な執行を行う工夫を図ってきたところであり、平成25年度も同様の取組を続けることで、旅費・給与あわせて▲2百万円を概算要求に反映したところである。		
補記（過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	0235	平成23年行政事業レビュー	0230

※平成23年度実績を記入

A. 文部科学省
26百万円

非常勤職員手当 15百万円
委員等旅費 11百万円

（科学官・学術調査官の職務の状況を把握し、給与および旅費を支給する。）

資金の流れ
（資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する）（単
位：百万円）

費目・使途
（「資金の流れ」
においてブロック
ごとに最大の
金額が支出され
ている者につい
て記載する。費
目と使途の双方
で実情が分かる
ように記載）

A. 文部科学省			E.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
非常勤職員手当	科学官・学術調査官の給与	15			
委員等旅費	科学官・学術調査官に支出する旅費	11			
計		26	計		0
B.			F.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0